

# 2024年 ツバメの集団営巣＆ねぐら入り観察会(報告)

報告 野口 隆司

写真 垣井 清澄

野口 隆司

◆日 時：2024 (R6) 年 7月 27 日 (土) 16:45～20:30

◆場 所：集団営巣観察（北野田駅東隣「商業施設ライフ北野田店の通路」）  
ねぐら入り観察（堺市美原区「今池」のヨシ原）

◆参加者：合計33名

一般参加者：計23名（11組：大人16名、こども7名）

スタッフ：計10名（本会8名・地域のツバメ見守り隊2名）

◆協賛団体：堺野鳥の会・地域のツバメ見守り隊

ツバメは日本の代表的な渡り鳥であり、私達にとって親しみのある野鳥の一種です。3月下旬にフィリピンなど東南アジアから渡ってきて民家の軒下などで営巣し、越冬のために晩夏から秋にかけて東南アジアに渡っていきます。子ツバメのなかで翌年に日本に帰って来られるのは10%程度しかないと言われています。

本観察会は身近なツバメの生態を少しでも知ってもらおうと「堺野鳥の会」や「地域の見守り隊」の協賛を得て開催しました。この時期には巣の中のヒナは既に巣立っていますがツバメの集団営巣場所の様子や巣立った若いツバメや子育てを終えた親ツバメが渡りをするまで夜に集団で過ごすヨシ原の「ねぐら入り」を観察しました。

## 商業施設のツバメの集団営巣

午後4時45分に北野田駅改札前に集合。早速、駅の東隣りの商業施設「ライフ」の1階と2階の通路にある集団営巣を「地域のツバメの見守り隊」の方々に案内していただきました。「約15個の巣が防犯カメラの上や壁などに造られている。」、「既に今シーズンの2回目の産卵した幼鳥（2番子と言う）が先日無事に巣立った。」、「巣の中の卵や孵化したヒナがカラスなどに襲われるケースが多発し、カラスが近づけない人通りの多いこのような場所に集団で営巣している。」などの説明を受けました。

参加者から様々な質問が出され、ツバメへの関心の高さが分かりました。又、建物管理者が巣の下に発泡スティロールで糞除けを取り付けて大切に見守っておられることが分かり、来年もこの場所で営巣することを願ってやみません。

## 今池のヨシ原のツバメのねぐら入り

その後、ねぐら入りする美原区の「今池」のヨシ原への移動です。北野田駅前広場から乗り合いバスに乗って下車後、徒歩で現地に向かいます。小型バスなので先発組と後発組に分かれて、各組が午後6時30分前後に参加者全員が現地に到着。

本会スタッフから、「何故ツバメは集団ねぐらをつくるのか。」、「1994年から今までの約30年間に堺市域やその周辺でねぐらを15回も移動している。」、「今池のねぐらは今シーズンで4年目でこれまでで最長。」、「この間、ツバメをはじめ多様な生き物を育むヨシ原は開発などで消失しており保全が必要。」などについて説明。

説明を終えかけた午後6時40分過ぎに「ツバメが飛んでいる!」の参加者の方からの声、ヨシ原の低空を10羽飛び交う。徐々にその数は増え、午後7時前にはあっという間に上空にゴマを蒔いたように飛び交い、午後7時15分前には一部はヨシに止まる。茜色の夕日の中、さらに湧くように上空高く飛んだり、ピチュピクと鳴きながら参加者の目の前を飛び去り、大人や子供たちの「ワー、来た、めっちゃすごい!!」の驚きの声が飛び交う。

そして午後7時30分頃にアブラコウモリが飛び始め、ほぼヨシ原へチェックインし、暗闇とともに合図をしたように一斉に鳴きやむ。

スタッフから昨年よりも多いのではコメントもあり、約6,000羽と目算しました。その後、8月上旬に研究者の方が調査したところ、ざっと15,000羽の規模かとの情報があり、やはり今年は多そうです。

## ツバメの棲息環境を守ろう

しかし、現在、全国的にツバメが減少しています。身近な生き物だったミナミメダガが絶滅危惧種に指定されたように、私達が気が付かぬうちにツバメを取り巻く棲息環境は劣化しており、ツバメも同様に絶滅危惧種になりかねません。

ひと昔なら民家の軒下を覗いたらよく観られたツバメの巣は、建築様式が変わり巣を造るのに適した軒下のある建物が少なくなったり、ヒナの糞を嫌って巣づくりができないようにネットが張られたり、壊すなど巣づくりが難しくなったりしています。さらに孵化したヒナがカラスなどに襲われ命を落とす事例が多くみられます。

又、ねぐらの場所は関西では京都市の宇治川の河川敷、奈良市の平城宮跡の溜池、高槻市の淀川右岸の鵜殿などが有名ですが、大阪府下ではここ今池など十指で数えるほどしかありません。以前は多くのため池で見られたまとまった面積のヨシ原は、現在堺市域でも数えるほどしかなく、全国的にため池の埋立て開発や護岸の改修などによって急激に失われてきたのも原因の一つです。

ため池や河川敷などの水辺に生育するヨシ原の役割はツバメの貴重なねぐらを提供するだけでなく、水質浄化や堤防を波から守り、そこに棲む野鳥や水生生物などの貴

重な場所にもなっています。現在、この今池は溜池として水は貯められておらずヨシ原の乾燥化が懸念され、また昨冬に南側のヨシが刈り取られおり埋立て開発がされるのかと心配しました。

今回の観察会を通じて、市民の方々に少しでもツバメの巣やねぐらのヨシ原などの棲息環境の状況を知ってもらい、今後のツバメの見守りのきっかけになることを願っています。観察会に参加された皆様、夜遅くまでお疲れ様でした。



店舗前の集団営巣の説明



監視カメラや照明灯の上の巣と糞受けの発泡  
スティロールの板



今池の堤に並んで、飛んで来るツバメ達を観察





## フィールドスコープでヨシに止まるツバメの観察　夕日をバックに上空高く飛び交うツバメ達

### 参加者感想文

ツバメのねぐら入り観察会に参加して

遠藤 賢

7月27日17時頃、大阪の北野田駅に集まり、家族でツバメのねぐらを観察させていただきました。まず始めに雛が成長するまでの巣の観察を駅北側商業施設で観察しました。現在は糞や鳴声の影響で巣の撤去や駆除が行われ、数が減ってきているとのことで、ツバメのために多くの人々の協力と理解が必要だと感じました。

その後、18時頃に美原区今池に移動しツバメのねぐら入りを観察しました。最初は数羽程度飛んでいたツバメ達は19時過ぎには空を埋め尽くすくらいになり壯觀でした。

小学3年生の娘は「10羽中2羽しか戻って来られないと聞いて、戻って来るツバメのために日本にある巣を守ってあげたいと思った。」、年長の息子は「ツバメが絶滅するの嫌やから守ってあげたい。」と感想を言っていました。

また機会があればツバメのねぐら入り観察会に参加したいと思います。